

平成二十一年度事業計画案

1、教化研究会議

● 第四十二回中央教化研究会議

- ・ 期日 九月十日（木）～十一日（金）の予定
- ・ 会場 宗務院
- ・ 教区教研運営委員や関心のある本宗教師の出席。
- ・ 運営会議を開き、内容を協議し、企画・運営などの要綱を決定する。会議資料を作成する。

● 地域教化研究会議の開催運営

- ・ 全十一教区での開催運営。
- ・ 中央教研との関連を踏まえ、各教区・管区で教化の現場に関連するテーマを企画し、教化研究の充実を図る。

・ 教研運営委員と協議し、地域の独自性を加味し、

企画・準備・運営に取り組む。

2、研究部門

● 日蓮教学の現代化。中央教研や教化学研究発表大会

の成果を踏まえ、研究員を中心に教学の現代化について研究を行う。

- 教化学の研究。第十回教化学研究発表大会を開催し、教化のあり方、現代教化の方策を研究する。必要に応じて、管区単位での教化学研究集会開催し、地域の教化研究を推進するとともに、管区教化研究会議開催の機運を醸成する。

- 教団論の研究。第二十回法華経・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナーを開催し、現代の諸問題と教学・教化について研究をすすめる。

- 新宗教研究。法華系新興教団を中心に、研究を行う。

- 立正平和運動の研究。新宗門運動「立正安国・お題目結縁運動」における立正平和運動の位置づけと、『立正安国論』奏進七五〇年（平成二十一年）の意義を考える。

- 教団史研究。明治以降の近代日蓮教団史を中心とし

て、他教団との関わりについて研究する。

- 必要な研究調査のため、研究員・顧問・嘱託で分担してプロジェクトチームを構成する。

- 研究例会。研究員各自のテーマをそれぞれの立脚点として、研究を継続し、成果を発表する。

- 現宗研ウェブサイト上の「日蓮宗教化センター」を運用する。また、諸資料のデータベース化、各種事業の公開など新たな布教伝道方法を研究する。

- 「仏教各宗教化関係研究機関連絡協議会」「教団付置研究所懇話会」「日本近代仏教史研究会」への参加。

- その他

3、調査部門

- 他教団活動実態調査アンケート結果をもとに、他教団の活動実態を分析し、必要に応じて第二次調査を実施する。

- 過疎地域寺院活性化検討委員会・伝道部と連携を計りつつ、過疎地域寺院の実態調査を継続し、対策を検討する。

● 必要に応じてアンケート調査・現地調査を実施する。

- その他

4、資料部門

- 各教化センターとの教化研究、布教資料などの交流を図り、収集に努める。

- 図書を購入し、コンピュータで蔵書を管理し、ウェブ上で検索できるシステムの構築につとめる。

- 視聴覚資料の購入・保管。

- 各種教化資料を収集し、保管する。

- 創価学会・顕正会など法華系新興教団に関する資料を収集し、保管する。

- 日蓮宗アーカイブとしての役割を果たすための各種資料の収集保管。

- 「現代宗教研究」第四十三号の発行。

- 「平成十九年日蓮宗年表」の発行。

- 教化シリーズの発行。

- その他

5、会議

- 教化センター連絡会議を開催し、教化センター間の

交流、情報交換などを行う。

● 教区教化研究会議連絡会議を開催し、各教区の教区運営委員とともに各教区教研間の協力と調整を図り、

一層の充実を目指す。

● 研究員会議・顧問会議・嘱託会議の開催。

● その他